

1 気象概況（6月前半：果樹研究所）  
 6月1～3半旬の平均気温は、1半旬が17.5℃で平年より1.4℃低く、2半旬が21.6℃で平年より2.3℃高く、3半旬が21.8℃で平年より2.1℃高い状況でした。この期間の降水量は6.0mmで平年の16%でした。

2 土壌の水分状況（6月16日現在）  
 果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmは乾燥により測定不能、深さ40cmと60cmは、それぞれ2.2と2.5でやや乾燥状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（6月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が42.5mmで平年比101%、側径が37.5mmで平年比99%、「ゆうぞら」は縦径が43.7mmで平年比102%、側径が35.6mmで平年比99%と、両品種共にほぼ平年並みの状況でした。

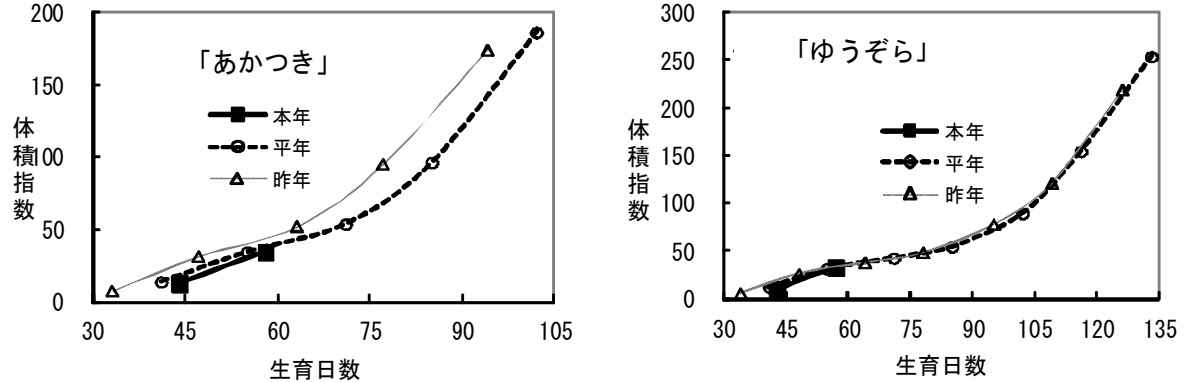


図1 ももの果実肥大

イ 新梢生長（満開後50日）

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が9.8cmで平年比100%と平年並み、展葉数は11.4枚で平年比86%と少ない状況でした。また、葉色（SPAD値）は平年比96%とやや淡い状況でした。

ウ 核障害の発生（満開後55日）

「あかつき」の核頂部亀裂の発生率は35%で平年より少なく、縫合面の割裂は見られていません。

エ 硬核期開始日と収穫期予測

「あかつき」の硬核期開始日は6月11日で、平年並みの状況でした。また、「あかつき」の収穫予測では、収穫開始は8月3日頃、収穫盛りは8月7日頃で、共に平年より1日遅い予測となっています。

表1 ももの発育予測（6月11日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月11日	6月11日	平年並	8月3日	8月2日	1日遅い	8月7日	8月6日	1日遅い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大（6月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が26.0mmで平年比99%、横径が31.1mmで平年比103%、「豊水」は縦径が27.6mmで平年比99%、横径が29.7mmで平年比102%と、両品種共にほぼ平年並みの状況です。

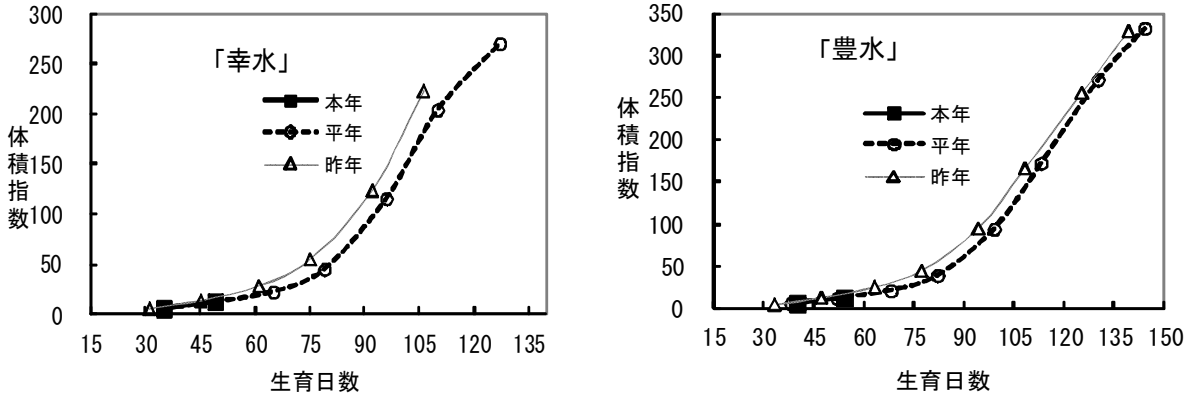


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長（満開後50日）

「幸水」の予備枝新梢長は78.6cmで平年比99%と平年並み、不定芽新梢長は78.1cmで平年比112%と長い状況です。

ウ 生育予測（6月16日現在）

DVRモデルによる「幸水」の裂果期予測は、7月14日頃で平年並みと予測されます。また、収穫盛期は9月1日頃で、平年より1日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大（6月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「つがる」は縦径が37.9mmで平年比98%、横径が40.2mmで平年比98%とほぼ平年並み、「ふじ」は縦径が33.5mmで平年比94%、横径が33.5mmで平年比94%と平年より小さい状況です。

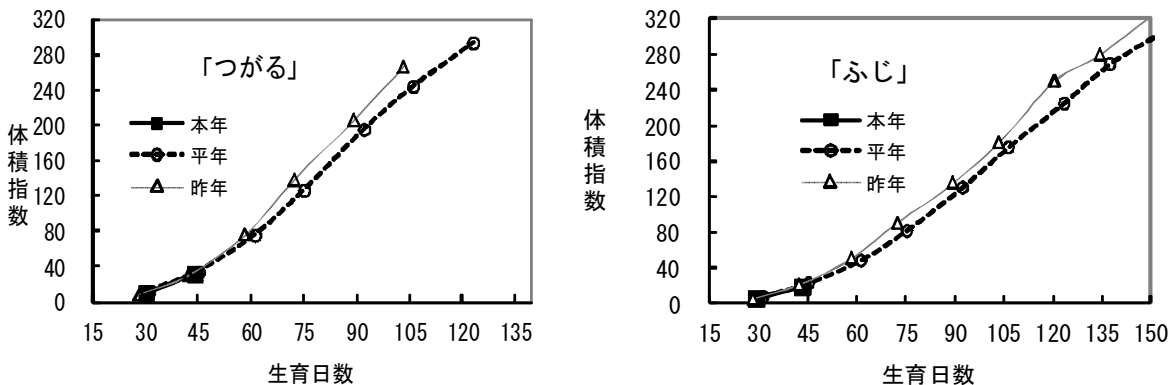


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長（満開後40日）

「ふじ」の新梢長は19.1cmで平年比100%と平年並み、新梢停止率は100%（平年93%）で平年よりやや高い状況となっています。

(4) ぶどう

ア 新梢生長（発芽後50日）

「巨峰」の新梢長は、65.3cmで直近3年とほぼ同等、展葉数は11.3枚と少ない傾向となっています。

#### イ 開花状況

「巨峰」の開花始めは6月5日、開花盛期は6月9日で、共に平年より1日早い状況でした。

### 4 栽培上の留意点

#### (1) 共通

今後、降水量が少なく土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を実施してください。

##### ア かん水

夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしてください。

ただし、ももでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

##### イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

##### ウ マルチ

刈り草や稲わら(暫定許容値(400Bq/kg)以下のもの)のマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

#### (2) もも

##### ア 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮および果肉が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。また、核障害の発生が多い場合は、修正摘果を2～3回に分けて実施し形質の良い果実を残すよう努めましょう。

##### イ 着色管理

枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シートの設置等の収穫前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

##### ウ 収穫上の注意

核障害のある果実は胚に障害が見られることが多い傾向があります。硬核期以降に胚が障害を受けた場合、多雨条件下では生理落果が発生しやすく、落果しないものでも早熟になることが多いので、収穫が遅れないように注意しましょう。

#### (3) なし

##### ア 着果管理

仕上げ摘果は、予備摘果終了後速やかに実施しましょう。この際、樹勢や果実肥大の低下が見られる場合は、新梢停止期前(満開後60～70日、6月下旬～7月上旬頃)に着果数の10～15%程度を目安に摘果して着果数を制限しましょう。小玉や果形の乱れが見られる園地もあるので、なるべく果形、肥大の良い果実を残し適正着果量に調整しましょう。

##### イ 新梢管理

「幸水」で、伸び出している副芽枝新梢が多い場合は、摘心しましょう。摘心は、側枝基部20～40cm部を対象に、ロゼット状の基部葉とその上位節2～3節を残して摘心すると果実肥大促進と花芽形成の効果が期待できます。

「豊水」では、満開後60日頃(果樹研究所は6月21日頃)に新梢伸長が緩慢となる予備枝は、翌年着果した果実の果実肥大と果形が良いので、直ちに誘引を開始しましょう。また、下垂したり倒れて向きの悪い新梢等は、誘引して方向を修正しましょう。側枝先端部が倒れた場合には、先端新梢を立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の通りを良好にしましょう。

##### ウ 予備枝管理

「幸水」の予備枝誘引の適期は、新梢停止期の約10日前の満開後65日頃です(新梢の生育状況は新梢長が90～100cm、展葉節数が18～20節)。6月末～7月上旬頃が誘引作業のピーク

となるように誘引作業を行いましょう。

#### (4) りんご

##### ア 着果管理

仕上げ摘果は満開60日後までに実施しましょう（果樹研究所「ふじ」は7月2日）。

摘果の程度は、「つがる」では3頂芽に1果（1果当たりの必要葉枚数45枚）、「さんさ」「緋のあづま」「ジョナゴールド」「陽光」「王林」「ふじ」は4頂芽に1果（必要葉枚数60枚）を目安としてください。

果形や肥大状況等をよく観察しながら丁寧に実施し、小玉果、変形果、サビ果、傷果、病害虫果、果台の長い果その果実、果そう葉の少ない果その果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残すよう心がけましょう。

仕上げ摘果の遅れは翌年の花芽分化率低下の原因となるので、遅くとも7月上旬までに適正着果量に調整してください。

品種別の摘果上の留意点は、「さんさ」は、隔年結果性が強いので、他の品種に先駆けて摘果を実施しましょう。「つがる」は、大玉果にすると日持ちが悪くなるので、中玉生産を目標に摘果を実施しましょう。「ジョナゴールド」は着果数が多いと着色不良や隔年結果が問題となるので適正着果を心がけましょう。「陽光」はサビの発生が多いことから側果は利用せず、サビの発生状況をよく確認して摘果しましょう。「王林」は樹勢が落ち着くと花芽着生が多く着果数が多くなりやすいので仕上げ摘果を徹底しましょう。

##### イ 新梢管理

主枝や亜主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝を、夏季せん定でせん除しましょう。

#### (5) ぶどう

##### ア 摘房・摘粒

摘房は、果実品質向上と摘粒や袋かけ等の作業労力の軽減のため有効です。有核栽培では結実を確認した後（満開約2週間後頃）、1新梢1果房を目安に、単為結果が多い果房や花振るいが多い果房、果粒肥大の揃いが悪い果房を中心に摘房を実施しましょう。

摘粒は、実止まり決定後、有核果と無核果の区別が付くようになった頃から開始します。時期が遅れると果粒同士が密着し、はさみが入れにくくなるなど、作業性も低下するので計画的に作業を進めましょう。

##### イ 新梢管理

実止まりが確認され次第、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を切除し、棚面の明るさを確保しましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア りんご輪紋病・斑点落葉病・褐斑病

梅雨期は輪紋病、斑点落葉病の重点防除期なので防除を徹底しましょう。

また、褐斑病の発生が認められる園では、今後、二次感染を繰り返すおそれがあるため、防除を徹底しましょう。

##### イ ももせん孔細菌病

梅雨期に降水量が多いと二次感染による発病が増加するおそれがありますので、今後も引き続き注意が必要です。

発生が認められる園地では6月中旬以降10日間隔でせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。なお、早生種では使用薬剤の収穫前日数に十分注意しましょう。また、園内に春型枝病斑や発病葉および果実が見られる場合は切除を徹底し、園外に持ち出すなどして適切に処分しましょう。

##### ウ ももホモプシス腐敗病・灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重点防除時期にあたるので、6月下旬に本病に防除効果の高い薬剤を散布するとともに、伝染源となる芽枯れや枝枯れが認められる場合はせん除し、園外に持ち出すなどして適切に処分しましょう。

また、灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、6月下旬以降、灰星病防除剤

を十分量散布し防除を徹底しましょう。

エ なし黒星病、輪紋病

黒星病の罹病部位は見つけしだい除去しましょう。また、輪紋病も梅雨期が重点防除期になるため、6月下旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょ。

オ ぶどう晩腐病

開花後は本病の重点防除時期となるため、落花直後の薬剤防除を徹底しましょう。なお、果面の汚れを防ぐため、袋掛けが終わるまでは展着剤の使用を控えましょう。また、幼果期の散布後にカサ掛けを行いましょ。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガの次世代の防除適期は7月2半旬～3半旬頃と推定されるため、この時期に合わせて防除を行いましょ。

本種の発生は放任園や観賞用の無防除ハナモモ等の栽培園が影響していると考えられるため、発生源が近隣にある園地では、発生に注意しましょ。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイの第2世代防除適期は6月6半旬～7月2半旬頃と推定されます。

本種の第1世代は主にモモ等の核果類の新梢に寄生するが、後半の世代では、なし果実への寄生が増加します。例年、ナシの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除を徹底しましょ。

ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、6月3半旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょ。

被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょ。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施しましょ。

表2 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成25年6月17日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	7月2日	7月6日	6月20日	6月28日
平年並み	7月4日	7月9日	6月22日	7月2日
2℃低い	7月7日	7月13日	6月27日	7月8日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：6月9日、ナシヒメシンクイ：4月30日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=22752#gi\\_jyutsu\\_jyuhou](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyuhou)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>